

清浦地錦抄

六

185
20
133

五之

實色付類	冬木	竹筴	松	類	豚芥
凡二丁	十七丁	十六丁	十五丁	十三丁	初丁



国立国会図書館 タイトル『地錦抄 16巻附録3巻』 請求記号 185-133

ガラス使用

増補地錦抄巻之五

春中未通

あはれに 花うこん 枝多

あはれに 花うこん 枝多
あはれに 花うこん 枝多
あはれに 花うこん 枝多

春中未通

あ査 花うこん 枝多

あ査 花うこん 枝多
あ査 花うこん 枝多
あ査 花うこん 枝多

さかん 花うこん 枝多

さかん 花うこん 枝多
さかん 花うこん 枝多
さかん 花うこん 枝多

故柳原芳楚納本

あがら 花うこん 枝多

あがら 花うこん 枝多
あがら 花うこん 枝多
あがら 花うこん 枝多

あがら 花うこん 枝多

あがら 花うこん 枝多
あがら 花うこん 枝多
あがら 花うこん 枝多

地錦抄 巻之五



唐の胡椒

唐の胡椒のよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

苗代公あしひらと
あつたといふ

唐の胡椒のよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

佛の楮がきのよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

山黄保やまわうのよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

唐の胡椒のよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

木樨子きげんのよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

佛の楮のよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

山黄保のよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

白南天はくなんてんのよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

檳南天ひんなんてんのよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

紅下野こうげののよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

紫白花むらさきしろはなのよきものは
多岐に辨別して其の
よきもの本も善きもの
をえせうのよきものは
ありて其のよきものは
ありて其のよきものは

唐の胡椒

佛の楮

すすゆら
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本

あぢも本
あぢも本
あぢも本









たかたか





地錦抄
卷五

花





地錦抄
卷五

五



押花 びんぼうの葉及びあり花

ひんぼう

白友 花の葉の形ありて

ひんぼう

ひめつら 白くは葉の形ありて

ひめつら

萍荊桂 葉の葉の形ありて

萍荊桂

深梅り 葉の葉の形ありて

木天蓼 葉の葉の形ありて

葡萄 葉の葉の形ありて

裕石 葉の葉の形ありて

蓮翹 葉の葉の形ありて

蓮翹 葉の葉の形ありて

花の葉の形ありて

押花 びんぼうの葉及びあり花

ひんぼう

大食友 葉の葉の形ありて

大食友

工用友 葉の葉の形ありて

工用友

五味子 葉の葉の形ありて

五味子

水入テ 葉の葉の形ありて

蓮葉 葉の葉の形ありて

蓮葉 葉の葉の形ありて

凌青 葉の葉の形ありて

凌青 葉の葉の形ありて

花の葉の形ありて

花の葉の形ありて

花の葉の形ありて

花の葉の形ありて

花の葉の形ありて

花のみよに故に全を法をとりし
ふくまふもまふあり

壁生草 花のついでにのどく
ふくまふもまふあり

○ 荆棘乃るひ通

しゆ守 花のついでにのどく
ふくまふもまふあり

長春 花のついでにのどく
ふくまふもまふあり

四季 花のついでにのどく

得長春 花のついでにのどく

牡丹荆 花のついでにのどく

や荆 花のついでにのどく

相和荆 花のついでにのどく

荆棘 花のついでにのどく

○ 辛夷のさひ木

辛夷 花のついでにのどく

通者秋中初 花のついでにのどく

百部桂 花のついでにのどく

らうさ 花のついでにのどく

白芍薬 花のついでにのどく

らうさ 花のついでにのどく

白芍薬 花のついでにのどく

らうさ 花のついでにのどく

らうさ 花のついでにのどく

山柝荆 花のついでにのどく

唐荆 花のついでにのどく

らうさ 花のついでにのどく

○ 辛夷のさひ木

辛夷 花のついでにのどく



系のり まき 一名と木
系た まき 初ニ系か あけ けり
のこ

白蓮花 まき 白く まき せん せん 花
あて まき せん せん の まき せん

土団花 まき 土 まき 団 まき 花 まき 土 まき 団 まき 花

あ まき せん せん の まき せん
い まき の まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん
あ まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん

○木槿のり まき せん

長木槿 まき 長 まき 木 まき 槿 まき 長 まき 木 まき 槿

あ まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん

一色 まき の まき り まき ひ まき め まき ぶ まき づ まき 一 まき た まき り

本蓮花 まき 本 まき 蓮 まき 花 まき 本 まき 蓮 まき 花

あ まき せん せん の まき せん

大出蓮花 まき 大 まき 出 まき 蓮 まき 花 まき 大 まき 出 まき 蓮 まき 花

あ まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん

白絹緬 まき 白 まき 絹 まき 緬 まき 白 まき 絹 まき 緬

あ まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん

あ まき せん せん の まき せん

柳 梨子 老玉

ひとの宮みゆるありの
花ハ於ニ咲クニモ

柳ろし木

独揺柳 本やそくまざん糸の

ゆやぎ 立花はふゆゆ
本もざんていこのまじ

○梨子ろし木 春中

こがゆ 花ハ白 梨子をク
ガクあり

青梨子 ありそくま

水あり ありあり丸

まんた ありそくま

まろと ありそくま

まんた ありそくま

まのつめち 花はふゆゆ

まんた ありそくま

清梨子 ありそくま

根根 ありそくま

○柿のろし木

てんたい ありそくま

こよ ありそくま

まろたん ありそくま

ありそくま ありそくま

目録五

三



甲品丸 中つ丸

加羅 中つ丸 中つ丸

大平 大キク年

のまら 中つ丸

もちや 中つ丸

甲品丸 大キク丸

大棟 中つ丸

八右衛門 中つ丸

のまら 中つ丸

夜六 中つ丸

○ 栞 四季ニあはる

だつ 栞

栞 栞

栞 栞

栞 栞

金栞 栞

祝栞 栞

栞 栞

栞 栞

栞 栞

栞 栞

栞 栞

栞 栞

栞

栞

栗のつぼみ 木 栗のつぼみ 木 栗のつぼみ 木

○栗のつぼみ 木

丹波大栗 科 栗のつぼみ

新丹波 七月十八日 月 初

ちばり ちばり ちばり

新栗 七月十八日 月 初

○山株 木

山株 木 山株 木 山株 木

栗のつぼみ 木 栗のつぼみ 木 栗のつぼみ 木

三交栗 一年に三度花を咲かす

志ん栗 七月十八日 月 初

新栗 七月十八日 月 初

山株 木 山株 木 山株 木

いぬえ 木 栗のつぼみ

花柘栢 木 栗のつぼみ

白 木 栗のつぼみ

深 木 栗のつぼみ

らみ 木 栗のつぼみ

りし 木 栗のつぼみ

い系湯 木 栗のつぼみ



木尻 木尻のたらのぎとくをたを
ありすすりらの二種を

花ハ冬ノ草ノ如クニシテ
うーとぞ 藤 藤ハ冬ノ草
はうやう

○冬木之令

同テ四季ニ兼ありて冬ニ
きはじとて記スヤ 著テ
著るハ冬木ありて松花ハ
冬ニ著るハ冬木ありて松
花ハ冬ニ著るハ冬木あり
て松花ハ冬ニ著るハ冬木
あり

○松のろし木

雄松 雄松ハ冬ニ著るハ冬木あり
松花ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

冬見松 冬見松ハ冬ニ著るハ冬木あり

○竹のろし

頃和名竹非草ニ非木ニ云
ゆる通用あり

竹のろし

竹のろし

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

竹のろし 竹のろしハ冬ニ著るハ冬木あり

かたはけ 疎なけれりての乃
用いりしこれらけりやうり
は兼作 びとされりらのやう
りぬ

ちりひら びとけりてくにて
のんかめさゆんあり平と
箱板竹 今多くは細きは
のけり

金竹 竹の名をさしんこ
かんのまははらばの
一節つるを登竹たりやうり

新竹 色ちかくをさし竹あり
をいそ中竹の子かゆん
しくとと又ハ僕竹ハ
物や平 纏登ハ沙金百
物へとく 漢竹ととり
帯ニ目くさるうと今
を竹ハはのこしてハ
の中昔生ゆん又孟宗竹

○ 兼作

燒系 名をさしれりて
小な 名をさしれりて

若竹 若竹は毛もつもの
ゆる若竹ハ竹の
と文字とと方かありは竹
あまてとばつるもの

決竹 決竹のやう
の竹 決竹ハ竹の
すなり 矢竹ハ用
の尾乃

鳳凰竹 鳳凰竹あり
の尾乃

志竹 志竹あり

榎桐竹 榎桐竹あり

中竹 中竹あり

孟宗竹 孟宗竹あり

漢竹 漢竹あり

沙金竹 沙金竹あり

兼作 兼作あり

燒系 燒系あり



箱柏いばき 葉はのりのりのりのりのりのり

竹たけ葉は終つひ

栢いばき 葉は多おほく葉は多おほく葉は多おほく

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

栢いばき 葉は別わか別わか別わか

栢いばき 葉は栢いばき 葉は栢いばき 葉は

ひびろひびろ 葉はのりのりのりのりのりのり

栢いばき 葉はのりのりのりのりのりのり

唐からひは葉はのりのりのりのりのりのり

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

びび葉はのりのりのりのりのりのり

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

一五

印いん葉はのりのりのりのりのりのり

栢いばき 葉はのりのりのりのりのりのり

黒栢くろいばき 葉はのりのりのりのりのりのり

いばきいばき 葉はのりのりのりのりのりのり

木栢きいばき 葉はのりのりのりのりのりのり

唐栢からいばき 葉はのりのりのりのりのりのり

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

あまのりあまのりのりのりのりのりのりのり

一六

そくそく

る野模

て美ルさん

いぬ模

根

はぐり

伽骨木

船

○あつ

○さう

○わ

○め

栢

かりん木

羅漢樹

先佛乃形

虎尾

ひめ

うしろ

るる

栢

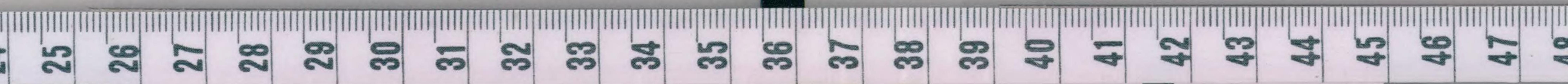
ス

る

る

栢

る



楸ツグ 花の白の葉のりらるる

ひらきツグ 葉の白の葉のりらるる

根ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

楠ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

楸ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

葉ツグ 葉の白の葉のりらるる

大通五

二十

唐抱子 花白くけりん

玉つゞき 花のらのこころ

桜木 花のらのこころ

桐 花のらのこころ

花 花のらのこころ

唐楊桐 花のらのこころ

まき 花のらのこころ

白 花のらのこころ

桜 花のらのこころ

桐 花のらのこころ

花 花のらのこころ

沈下花 花のらのこころ

花 花のらのこころ

松南花 花のらのこころ

花 花のらのこころ

花 花のらのこころ

花 花のらのこころ

馬酔木 花のらのこころ

花 花のらのこころ

花 花のらのこころ

花 花のらのこころ

花 花のらのこころ

一巻三

三十一



185
20
133

○ 實の 芳名と 木名

唐ならしき香通 葉や花が香の
木の長閑さや実の赤い色
二年三年のうちに
咲くはわりとよく
なり

屋ぶら通 葉の茶の香
よくもき実

花丁子通 葉の香が
よくもき実の赤い色

仙鶴通 葉の香が
よくもき実の赤い色
よくもき実の赤い色

梅垣通 葉の香が
よくもき実の赤い色
よくもき実の赤い色

花丁子通 葉の香が
よくもき実の赤い色
よくもき実の赤い色

柳木通 葉の香が
よくもき実の赤い色
よくもき実の赤い色

南天通 葉の香が
よくもき実の赤い色
よくもき実の赤い色

185

東 京 圖 書 館

和書門

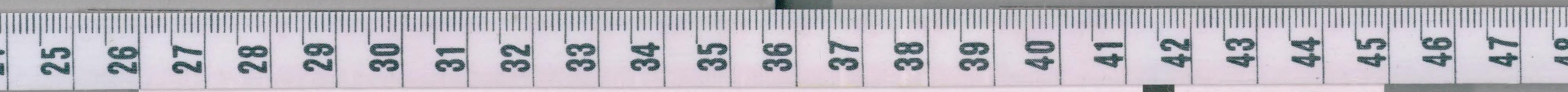
音
樂
類

別
札
函

8.
三
架

133
二
一
號

二
の
冊



国立国会図書館

タイトル『地錦抄 16巻附録3巻』 請求記号 185-133

ガラス使用